

## ザ・チャレンジ

(大学受験編)

高大接続改革により、2020年から大学入試制度が大きく変化しようとするなか（現在の中1からが対象となります）、今年初めて東京大学で推薦入試が実施されました。受験生173人に対して合格者は77人（うち70人が現役生）。高校生が潜在的に持つ多様性を“高校の中から掘り起こす、という視点から、東大は従来の後期試験を廃止して、学校長推薦による学部別募集の推薦入試を導入したのです。

今回行われた16年度推薦入試では、各学部が設けた「推薦要件」を全て満たす生徒を男女各1人まで学校長が推薦できます。推薦された生徒はまず志望する学部が求める書類・資料を提出します。この提出書類・資料に、各学部が求める人材の多様性が表れました。例えば「課外活動、ボランティアなどの社会貢献活動の具体的な内容と成果をまとめた論文」や「外国語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS、

## Q. 今年始まった東大・推薦入試の特色は？

TestDaF、DALF、HSKなど）」「全国レベルの大会・コンクールでの入賞記録」など。なかには「在学中に『総合的な学習の時間』または自主的な研究活動などを通して学び、考えたことをまとめた論文」や「在学中に執筆した論文で、志願者の問題発見能力・課題設定能力を証明するもの」のように、これからのグローバル社会において求められる主体性、自ら課題を発見し解決する能力を持った人材であるかどうかを見極める課題もありました。

これらの書類・資料を見る第1次選考の後、第2次選考として面接やグループディスカッション、プレゼンテーションなど（学部によって異なる）が実施されました。ある学部では、事前に提出した書類・資料の中身を具体的に掘り下げる質問だけで面接がほぼ終わったケースもありました。最終的には基礎学力を測るためにセンター試験の受験を必須とし、おおむね80%くらいの

得点率があるかどうかを判断した上で、総合的に可否が出ました。

推薦を出す条件が厳しく、人数も限られていたため、倍率は予想されたほど高くなりませんでした。その分、各高校で推薦を勝ち取るのは難しかったようです。今回の試みは、大学入試が「わずかな点数の差を競う」ものでなく、「総体的に学ぶ力を見る」ものになっていく流れの一つといえるでしょう。東大をはじめ推薦入試合格者がグローバル社会の最前線で活躍するのか、われわれ塾業界もこの動きを注視していきたいと思います。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な学び、の情報を紹介。次回は小学校受験編。

## A. 「総体的に学ぶ力」をチェック



CG高等館 東進衛星予備校各校舎で無料配布される大学進学情報紙「トーチンタイムズ」。最新3月1日号は、基礎力の完成時期が及ぼす、合否への影響について分析します（写真は2月号）。